



イケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 510 回 虚言を見抜く10の兆候

2013.2.3

ポール・クリケマン博士(リッチモンド大学ロビンズビジネススクールの准教授)のFBIアカデミーでテキスト分析という、被疑者の嘘を見抜く手法がある。大変興味深いもので、その中からいくつかをご披露したい。犯罪者に限らず、我々の身近にもありそうな話である。

1. 自分を主語にしない。

真実を述べる人は「私」という代名詞をよく使い自分の行動を描写する。虚言する人は自分について言及することを避ける言葉をよく使う。自分について話さない方法の一つは起こったことを受身形で表すことだ。

ー「私は金庫の鍵を施錠しなかった」のかわりに「金庫の鍵は開いていた」

ー「私は出荷を承認した」のかわりに「出荷は承認された」

自分について言及しない別の方法は、「私」という代名詞の代わりに「あなた」を使うことだ。

2. 動詞の時制

通常、誠実な人は過去に起きた出来事を過去形で描写する。偽装する人は過去の出来事を現在起こっているかのように言うことがある。現在形で描写するのは、頭の中でその出来事を何度もリハーサルしていることを暗示している。

3. 質問に質問で答える

虚言者でさえ嘘をつくのをおまない。あからさまな嘘は見つかるリスクがある。質問に嘘で答える前に、質問に全く答えないようにする。質問をかわす一般的な方法のひとつに、質問に質問で答える方法がある。

ー「なぜ自分の兄弟から盗む必要があるのですか？」

ー「私はそのようなことをするような人間に見えますか？」

4. 曖昧な表現

被疑者は、面接者の質問を避けるために不明確で多少変更を加えた曖昧な表現を用いる。思う、推測する、一種の、多分、かもしれない、おそらく、ほとんど、だいたい、あり得るなどの言葉に注意すべきだ。曖昧な発言と不明確な表現を用いることで、後から自分の主張を元の供述から矛盾せずにそのまま変更する余地を与える。

曖昧な動詞: 考える、信じる、推測する、仮定する、予想する、みなす等。言葉を濁す形容詞と形容動詞: 一種の、ほとんど、主に、多分、おそらく、だいたい等。曖昧な修飾語句: とも言えるだろう、多かれ少なかれ等。

5. 誓い

虚言する被疑者は最小限の情報を面接者に与えようとする一方、面接者に自分の話を信じてもらうよう最大限の努力をする。自分の供述をもっと説得力があるよう聞こえるように誓いの言葉をよく口にする。誠実な人と比べて、「誓って」「名誉にかけて」「神に誓って」「胸に十字を切って誓う」などの表現を多くちりばめる。

6. 婉曲

多くの言語は、ほとんどの行動や状況について別の言い方がある。罪を犯した人の供述は厳密ではっきりとした明確な同義語より、遠まわしで曖昧な言葉を含んでいることが多い。

例:「盗まれた」→「無くなった」、「取った」→「借りた」、「衝突した」→「ぶつかった」、「脅した」→「注意した」など。

7. 行動をほのめかす

人は実際に行ったと供述せずとも行動をほのめかすことがある。被疑者がほのめかしたすべての行動を実際に行ったと思いつまみないよう注意しなければならない。

8. 詳細の欠如

真実の供述は具体的な要素が含まれているのが普通で、中には聞かれた質問に関係しないものさえある。これは、真実を語る被疑者は長期記憶から出来事を思い起こしているからだ。一方、物語を作りあげる人は、供述を簡単且つ簡潔にする傾向がある。偽りの出来事に十分な想像力を使って詳細な説明を作り上げられる嘘つきはほとんどいない。その上、偽装する人は、面接者が自分の供述要素のどこかに矛盾するエビデンスを見つけるリスクを最小限にしようとする。虚偽と証明される証言は、より少ない方がいいのだ。

9. 物語のバランス

序章、本章、終章と物語は三つの部分から構成されている。通常、序章20-25%、本章40-60%、終章25-35%となる。物語の一部が予想より大幅に短い場合は、重要な情報が省略されている場合がある。物語の一部が予想より大幅に長い場合は、偽りの情報が埋め込まれている可能性がある。以下の保険請求申請のアンバランスな構成率を見てみよう。

10. 発言の平均的な長さ

文章中の単語の平均数は「発言の平均的な長さ」と呼ばれる。発言の平均的な長さは、文章の中の全ての単語数を文章の数で割ったものと等しい。

全単語数 / 全文数 = 発言の平均的な長さ

ほとんどの人は10から15の英単語数でできた文を話す傾向にある。ある問題について不安を感じる時、人は通常より明らかに長いか明らかに短い文で話す傾向がある。調査の際は被疑者の発言の平均的な長さから明らかに違う文章に特に注意を払うべきである。

この手法、我々のビジネスや日常生活にも、どうぞ、ご活用いただきたい。

参考出典: http://www.tabisland.ne.jp/acfe/fraud/fraud_066.htm